

令和5年8月定例市議会

行政報告要旨

総社市

本日、8月定例会市議会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、万障お繰り合わせの上ご出席くださりまして、誠にありがとうございます。また、日頃から市議会の皆様には、議会運営に格別のご配慮を賜り、重ねてお礼申し上げます。

私の任期中、最後の定例会市議会となります。私は、この4期16年走り抜けてまいりました。一日たりとも気を抜いたことはございません。そして、こうして走り抜けてこられたことも、議員各位、総社市民のご協力やお支えがあってからこそこのことであり、心から感謝とお礼を申し上げます。

思い起こせば、16年前、私が市政を担って間もないときの財政調整基金は10億1千万円、それが令和4年度決算見込みでは69億6千万円と、約60億円を積み重ねてまいりました。そして、16年前、総額336億2千万円あった借金は令和4年度決算見込みで318億3千万円と、約18億円を返済し、約78億円の財政健全化となりました。

当然その間、きびじアリーナ、サンロード吉備路、東総社

中原線などの借金返済や、幼小中学校の耐震化、新総社大橋、総社小学校、いじりの認定こども園、学校給食調理場、市庁舎の建設、そして病院への助成など、やるべきことはやりつつ、財政の立て直しを図ってまいりました。

その間、人口は約1,900人増加し、また、GLP、日本郵政、モンテール、シノブフーズ、大黒天物産などの多くの企業誘致にも、おかげ様で成功いたしました。そして、平成30年7月豪雨災害や新型コロナウイルス感染症を皆様と共に乗り越え、今日に至ったわけでございます。残り期間の1か月半も気を緩めることなく、全力でさらに邁進してまいる決意でございます。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、はじめての夏を迎えました。市内各地域での夏まつりが復活、老若男女が賑わう様子に、「地域の力」の重要性、力強さを改めて実感いたしました。

本市の人口は、令和3年11月19日の69,904人をピークに減少傾向に転じ、令和4年度末には69,428人

と500人近く落ち込みました。しかし、今年度に入ってから回復基調が見られ、287人増加、現在は69,715人と前年同日比で見てもプラス36人まで回復してきています。

一方、国立社会保障人口問題研究所の推計では、令和22年には64,649人まで落ち込むという予測がなされるなど、今ここで対策を打たなければ、人口減少の一途をたどることになりかねないため、引き続き、人口増に向けた施策に全力で取り組むとともに、地域の皆様の意見も伺いながら、人口増を加速させるための人口増パッケージ策定に向けて準備を進めているところです。

今後の総社の発展、市民生活の向上のカギを握るのはDXの取組です。

デジタルを使うことを目的化する「デジタル化のためのデジタル化」ではなく、真に市民に必要な便利なサービスを実装するとともに、行政事務を効率化し、市民生活、行政サービスを向上・変革させる「真のトランスフォーメーション」

にチャレンジしていきます。

7月20日には、その基盤となる「スマホ市役所」を開設したところです。スマホ市役所の提供事業者であるボットエクスプレス社と連携協定を結び、様々な申請をはじめ、あらゆる行政サービスをスマホ上で行うことができるようにするとともに、条件に合った方に行政側からアプローチする「プッシュ＋確認」型の申請サービスを取り入れることで、さらに高いレベルのサービスを提供できるように取り組みを進めていきます。

また、Chat-GPTに代表される生成AIの活用も行政サービスの向上、行政事務の効率化を図る上で、重要なツールになるものと考えており、業務での適用や市民からの質問への応答などに活用できるよう取り組みを進めます。8月18日にはChat-GPT機能を用いて健康保険証とマイナンバーカードの紐づけ等の疑問に回答する機能を公開する他、8月26日からは給食費無償化の申請に係る回答機能を備え、チャットピーとの会話も楽しむことができるようにするなど、機能を順次拡大していきます。住民ニーズの多い

分野で活用していくことはもちろんのこと、障がい者分野などデジタルの活用が困難と考えられる分野での活用についても、利用者への心の配慮を含めた倫理面なども検討事項に据えながら、デジタルの活用を図るべく、挑戦していきます。

本市は、8月9日「こどもまんなか応援サポーター」宣言を行いました。「こどもまんなか応援サポーター」とは、こども家庭庁が目指す「こどもまんなか社会」実現の趣旨に賛同し、自らもその取り組みを実践する個人、団体、地方自治体等のことです。本市がこれまで行ってきた子ども本位の施策をさらに推進し、今後も、子どもの最善の利益を常に考え、未来を担う子どもたちが心豊かに健やかに成長できるよう、安心して子育てができる環境づくりに取り組んでまいります。

7月27日には、青山学院大学陸上競技部の原晋監督が会長を務める、一般社団法人アスリートキャリアセンターと連携協定を締結いたしました。特に、部活動の地域移行について、最先端の科学的知見に基づいた指導とチームマネジメン

トを行える指導者の育成についての連携を図ります。行政の力、教育スポーツのメソッド、地域住民の力をあわせ、子どもたちにスポーツ・文化を通じて学び成長するチャンスを届けます。

ここで、ご報告がございます。

このたび、下水道使用料の徴収漏れ、および、車検期間が切れた公用車の使用が判明いたしました。このような事態を発生させ、市民の皆様のご信頼を損ねたことを、深く反省し心よりお詫び申し上げます。すぐさま総点検を指示するとともに再発防止策を講じ、今後二度とこのようなことを起こさないと強く決意し、市民の皆様から信頼される市役所となるよう努めてまいります。

平成30年7月豪雨災害から5年を迎えました。7月6日には五周年式典を開催、また、8月1日の災害の記憶を語り継ぐ災害復興イベントでは、市内の高校生・中学生約900人へ向け、災害を経験した大人から体験談や次世代へ伝えた

い思いを語りました。あの災害を風化させず後世に伝えていく決意を新たにいたしました。

ここで、6月議会での検討事項につき、その結果をご報告いたします。

山名議員から、障がいがある方が行方不明となった場合の早期発見や本人・家族の安心のため、メール配信システムやGPS機器購入助成を行ってはどうかとのご提案がありました。これについては、GPS機器等の購入やSOS（そうじやおかえりサポート）システム登録者への損害賠償責任保険料の助成を実施すべく、今議会に補正予算をお諮りいたします。

また、三上議員・荒木議員からあおいハイツの下水道処理施設の維持管理費への助成についてのご提案がありました。これについては、地元自治会等とも協議を行い、補助制度の創設に向け準備を進めてまいります。

最後に、ひとつお知らせです。「赤米フェスタ2023」

を9月17日、備中国分寺南広場において開催いたします。
相川七瀬さん、織田哲郎さん、小柳ゆきさんなどが出演し、
赤く色づく稲穂の中で繰り広げられる幻想的なステージを
是非お楽しみください。

残りの任期1か月半、これまで同様に全力投球で駆け抜けてまいりますので、議員の皆様をはじめ、市民の皆様におかれましても、これまでと変わらぬご理解と、ご協力をお願い申し上げます。私からの行政報告とさせていただきます。